

敦煌寫本研究年報

高田時雄 主編

第五號

2011年3月

京都大學人文科學研究所
西陲發現中國中世寫本研究班

注 記

この『敦煌寫本研究年報』は京都大學人文科學研究所の共同研究班「西陲發現中國中世寫本研究」班の報告である。共同研究の報告書は慣例として一定の研究期間終了後に刊行されることになっているが、本研究班では新しい試みとして毎年度の末に「年報」の形式で研究成果の報告を行うことにした。もちろん少しでも早く成果を學界に届けようとしてのことである。大方の好意あるご支持をお願いしたい。また「敦煌寫本」を誌名に掲げたのは最も一般に受け容れやすい名辭を選擇したに過ぎず、吐魯番ほか新疆各地で發見される寫本をも視野に入れていることは當然である。

ここ一兩年、武田科學振興財團杏雨書屋に所藏される“敦煌秘笈”の公刊が進行しているのに鑑み、本研究班でも鋭意それらを取り上げてきた。本號に掲載した論考のうち幾つかはその成果である。

目次

李盛鐸舊藏寫本《驛程記》初探 高田時雄	1
敦煌占卜文書中的鬼神信仰研究 劉永明	15
敦煌占怪書「百恠圖」考 ——杏雨書屋敦煌秘笈本とフランス國立圖書館藏本の關係を中心に 岩本篤志	65
羽 039V を中心とした變文資料の再検討 玄幸子	81
唐代敦煌縣勘印簿 羽 061, BD11177, BD11178, BD11180 小考 赤木崇敏	95
吐魯番出土儒家經籍殘卷考異 石立善	109
Дх17449「夾注本黃石公三略」小考 藤井律之	115
敦煌本《受八關齋戒文》寫本の基礎的研究 荒見泰史	129
『國清百録』管窺——書札文定型化の資料として 永田知之	151
『十方千五百佛名經』全文復元の試み 山口正晃	177
チベット支配初期の敦煌史に關する新史料 —— IOL Tib J 915 と IOL Tib J 292(B) 岩尾一史	213
僧尼書儀に關する二、三の問題 ——敦煌發見の吉凶書儀を中心として 山本孝子	225
寫經題記所反映的古人病患理念——以敦煌寫經爲中心 趙青山	245
「金剛醜女緣」寫本の基礎的研究 高井龍	257

〔敦煌寫本研究年報 第五號〕

2011年3月31日發行

編者 高田時雄

發行者 京都大學人文科學研究所
「西陲發現中國中世寫本研究班」

〒606-8265 京都市左京區北白川東小倉町47

Phone 075-753-6993 Fax 075-753-6999

ISSN 1882-1626